



富山市長 藤井裕久

No.29 神通の清流よ、永遠に

富山空港の対岸の神通川左岸堤防を北へ向かうと、おおむね10メートル間隔に並び、腰まで水に浸かってアユ釣りに興じる太公望たちの姿が見える。各地から訪れる釣り人たちの姿は、今や神通川の夏の風物詩でもある。全国でも有数のアユ釣りスポットであるその清流は、一年を通して豊富な水量を湛え急流となり、一気に富山湾へと流れ込む。神通川は、岐阜県高山市の川上岳を源に、流域面積2,720km²、幹川流路延長120kmを誇り、緑豊かな山岳地帯から流れ出すその清流は、豊富な栄養分やミネラルを含み神通川の幸や富山湾の幸を育むのである。

この辺りは、母の実家が近いことから子どもの頃は従兄弟や友達と一緒にしばしば川遊びにも来た思い出の場所でもある。当時は今のような整備された護岸ではなく、激しく流れる瀬と淀んだ淵は、冒険心を満たすという点において格好の遊び場だった。崩れかけた蛇籠護岸の淵に潜ると、アユやコイ、フナやマスなどの川魚が悠々と泳ぐ姿を見ることができた。波立つ早瀬の川底にはひょうきんな顔をしたカジカがはりついていた。釣り人には騒がしく邪魔な坊主たちのため、「魚が逃げるからあっちへ行け！」と叱られたこともあった。日焼けした少年たちの笑顔も叱られたことも、今と

なっては全てが良い思い出である。

さて、話は変わるが、神通川を語るときに目を背けてはならないのが、「イタイタイ病(以下、イ病)」の歴史である。小学生の頃に叔母から「イタイタイと苦しみ続ける病気」のことを初めて聞いた。イ病は、神岡鉱山から排出されたカドミウムが川水や流域の農地を汚染し、水や米などを通じて人体に蓄積されることで引き起こされた公害病である。世間の偏見にさらされた患者やその家族の辛く長い闘いは、原因企業との裁判において、1971年の富山地裁と1972年の名古屋高裁金沢支部での原告全面勝訴と、その後時を経て2013年に神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会が三井金属と全面解決の合意で一応の決着を見たが、私たちは富山市民としてその公害の歴史を決して忘れてはならない。

今は県立の「イタイタイ病資料館」においてイ病の歴史を学ぶことができる。ここでは「悲しく辛いイ病の歴史を風化させてはならない、公害を二度と起こさない、神通川の清流と素晴らしい自然環境を未来へ引き継いでゆく」という未来志向の取り組みが始まっている。自分にとって大切な人やご家族、町内会やPTAなどでぜひ一度訪れていただき、そんな思いを共有していただきたいと願うのである。私たちの子どもたちと地球の未来のために。



神通川の清流

今月の 広報クイズ

消防団員募集を呼びかけるラッピング電車「〇〇〇〇〇〇」が運行中です。

〇に入る文字は？ 答「〇〇〇〇〇〇」

富山市公式LINEかはがきで回答してください(1人1通)。

LINEの場合

右の二次元コードから友だち追加をして、メニューから回答。

かはがきの場合

答と郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と「広報クイズ」と書いて、広報課(〒930-8510 新桜町7-38)へ。

締切日▶10月17日(火)(必着) 賞品▶500円分の図書カード

当選発表▶賞品の発送で代えさせていただきます(抽選で5人)。

前月の答え フォトキト 前月の応募総数 351件(正解数346件)



とやま情報局

今月の 放送日 10月29日(日)11:45~

放送局 KNB北日本放送(1ch)

テーマ「文化・芸術の秋にいかが？
郷土博物館・佐藤記念美術館」

郷土博物館特別展「蜷川新右衛門さん 室町幕府政所代蜷川家の盛衰」や佐藤記念美術館特別展「生成—Bringing Things to Life(ものにいのちを吹き込む)」について、見どころなどを紹介します。

HP市ホームページ(No.1002571)